



## 新大工の街並みと長崎監獄

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 5 □

風頭から新大工方面を撮  
影している。中央の横に走  
る家並みは旧長崎街道。左  
端の茂みは伊勢宮で、右端  
の白塀は写真師上野彦馬の  
屋敷である。明治15（18  
82）年に建った「ビード  
ロの家」が見える。反対の  
北側の屋根には採光のガラ  
スが嵌められていた。

れた牢屋敷は明治9年に長  
崎監獄と改称され、明治15  
年ここに移転した。幕末、  
ここには番役五組（遠見番  
・唐人番・船番・町使・  
散使）および町役人の武芸  
道場（ぶだう）部館があった。明治  
10年の西南戦争時には、寺  
や民家におかれた病舎では  
足りずに、この畑地に官軍  
の仮病院が建てられた。

主義の監獄の改善を求めら  
れた明治政府は、監獄費を  
県から国庫の支弁に変更し、  
外国によく知られた地に五  
大監獄を建設する。その一  
つ長崎では、明治41（190  
8）年ジャスピアニストの  
山下洋輔の祖父、啓次郎の  
設計で、諫早に近代的で清  
潔なパノプティコンの長崎  
監獄ができ、長崎は片淵分  
監となる。大正11（22）年に  
長崎刑務所片淵分監と改称  
され、昭和3年浦上岡町（現  
平和公園）に長崎刑務所新  
監ができて移転消滅する。

# 広大な敷地 3区域に分割

（長崎外国語大・新長崎学  
研究センター長）

週1回掲載します